

# 転校生なギャルJKはダークエルフ！？ 3章結末

癒し庵もち猫 クアトロ

## 14.結末

ナナリー「っしゃーっ！書き終わったー♪

んー？何ー、リズ？

リズ 「いつまで小説書いてるのって言ってんの！時間ヤバいよー？」

ナナリー「え？ヤバ、ホントだ。

もうそろそろ出かけねえと遅刻だわ。

わりいリズ。すぐ準備すっから、ちょい待っててつ。

ウチは慌てて荷物をバッグにかき込んだ。

数秒で支度し、荷物を確認する。

ナナリー「忘れ物はー…、ないな。

オッケー♪」

何か忘れ物をしている気がするが、こういう時によくあるやつだ。

そう割り切り、リズの待つ玄関へ向かった。

ナナリー「おっ待たせー♪」

待っていたリズと共に家を後にした。

通い慣れた通学路。

双子の妹リズと、他愛のない会話をしながらいつも通っている。

リズ 「それにしてもナナが文学に勤しむ時がくるとはねー。」

ナナリー「あー、小説なー。すっかりハマっちまってさ♪」

リズ 「なんか不思議。」

ナナリー「ん？何が？」

リズ 「私たち双子じゃん？なのに私はそういうの全然興味沸かないんだよねー。」

ナナリー「あー、確かに。

今まで好きも嫌いも、全部一緒だったもんな♪」

リズ 「ナナみたいなギャルに小説ってウケるっ♪」

ナナリー「あのさ…リズ、言い方酷くねえ？」

それギャルをディスってんぞ…。

まあいいけどさ。

そうは言われても、小説書いてる時が、今一番楽しいんだよねー♪

ナナっちも、まさかこんなに続くとは思ってなかつたよ？

けど案外、頭の体操になるつづーか、話題に引き出しになるつづーか。」

リズ 「ナナが頭の体操って…、どうしちゃつたの？」

ナナリー「さっきからバカにし過ぎじゃね…？」

ナナっちだって没頭できるものを見つけたのつ。

いくら双子だからって、言っていい事とわりい事があんの、分かんねえ？」

リズ 「あー、ごめんごめん。ちょっとからかってみたくなつただけ。」

ナナリー「ああ、怒ってねえから大丈夫だって。

リズはそうやってからかうけどさ、

ナナっちはアレをコンテストに応募すんの。」

リズ 「コンテスト！？ガチじゃん！凄いよ！」

ナナリー「そうか？別に凄くはねえと思うけど？」

リズ 「だってさー、ナナったら何事も長続きしなかつたじゃん？」

ナナリー「うーん、確かにナナっちがこんなに長く続いてんの、珍しいかもな。」

リズ 「そつかそつかー。

じゃあ余り邪魔しちゃいけないね？

私はそつと応援してるよ♪」

ナナリー「ああ、イイのイイの。」

別に邪魔だなんて思ってねえからさっ♪」

リズ 「そう？じゃあ今度差し入れでも持つて行くね♪」

ナナリー「おう、あんがと♪

なアリズ、今日は妙に楽しそうじゃん。

何かあった？」

リズ 「えへへー♪転校生が楽しみでさー♪」

ナナリー「転校生？」

心臓がドクンと脈打つ音が聞こえた。

この後起る事に身構える。

ナナリー「て、転校生がどうしたのさ？」

リズ 「あれ？ナナ知らなかつた？」

今日ウチの学校に転校生が来るって。」

ナナリー「へえ、こんな時期に...。

珍しいじゃん...。」

リズ 「し・か・もー、私達のクラスに来るんだよ♪」

ナナリー「へえ、そうなんだ...。」

リズ 「おまけに超イケメンだって、既に噂になってるんだー♪」

ナナリー「超イケメン？まあイケメンかどうかはどうでもいいけど...。」

こんな展開、漫画やアニメでしか見た事がない。

いや、つい最近同じ文章を見た。

当たり前だ。ウチが書いた小説の内容と同じなんだから。

リズ 「ねえナナってば。聞いてる？」

ナナリー「ああ、話な？聞いてるよ？」

「ちょっと考え方してただけ。」

リズ 「考え方？」

ナナリー「いやー、空がさ、今日も曇ってんなーと思って。」

この後起ころ事はもう予測がつく。

いや、この場合、事実と言った方がいいのか。

ナナリー「なあリズ、その歩行者信号、ウチらが渡る直前で点滅すんぞ。」

渡ろうとした矢先、歩行者信号が点滅し、赤に替わった。

リズ 「え、何で分かったの？」

「ねえ、聞いてる？」

ここまで偶然、という事もある。

何も知らないリズが興味津々と言う風に聞いてくる。

リズ 「え？え？何？超能力？」

ナナリー「いや、超能力とかそういうんじゃねえけど...。」

「んで、この後、甘い香りと同時に、その超イケメンってのが横に並ぶから。」

言い終わるか否かというタイミングで、甘い香りがふわりと鼻先を撫でた。

ナナリー「ほら...来た...。」

聞こえていないのか、リズはウチの肩をバンバン叩いて飛び跳ねている。

リズ 「ねえナナ、隣り隣りっ！ヤバい！超イケメンなんだけどっ！」

ナナリー「ああ...確かにヤベエ....。」

「違う意味でヤベエ事になったぞ、リズ....。」